2012年度

明日を生きる
子どもたちのために

一宮市小中学校ＰＴＡ連絡協議会

一　宮　市　教　職　員　組　合

は　じ　め　に

この度，保護者の皆様と先生方のご理解とご協力により，2012年度「明日を生きる子どもたちのために」が発刊できる運びとなりました。

2011年3月11日東日本大震災が発生し，日本中が混乱し，未だ多くの問題が解決されておりません。だれもが生きることの大切さを学んだはずなのに，子どもたちを取り巻く悲惨な事件事故も毎日のように報道されています。価値観の多様化により，帰属意識や仲間意識が希薄になり，思いやりや絆の大切さが失われ，いじめ問題等が深刻化してきているように感じます。

そんな今だからこそ，改めて，親として家庭の大切さ役割を見直すべきではないでしょうか。子どもたちにとって家庭とはくつろぎの場所であり，生きる力をはぐくみ，文化を伝える所で子どもたちの成長にかけがえのない場所なのです。将来を担う子どもたちが，安心して夢を持てる環境づくりは，大人たちの使命であると考えます。ＰＴＡ連絡協議会といたしましても，学校・家庭・地域の連携をさらに深め，子どもたちの健やかな成長を育むために協力・協働体制を一層充実させ，ともに高めあうＰＴＡを目指して連携を図っていきたいと思っています。

今年の7月に尾西グリーンプラザにて，「子どもたちとともに」というテーマで，「2012健全育成の会」が開催されました。子どもたちのよりよい成長を願って，保護者と教師の相互理解を深め，学校と家庭が連携をしながら，子どもたちを支援していこうという目的で保護者代表2名・教師代表（健全育成委員)3名からテーマに関した内容で体験談を話していただき，ともに相互理解を図りました。

また，9月には一宮市民会館にて，「一宮　母と女性教師の会・文化講演会」が開催され，講師　石原良純氏を迎え，「石原家の家族愛＆自然への思い」と題して家族愛の大切さについて講演されました。

社会環境の急速な変化は，経済不安・雇用悪化・核家族と大人も子どもも大きな影響を受けているといっても過言ではありません。しかしながら将来を担う子どもたちが，夢と希望を持ち，心豊かにたくましく成長していけるように真剣に社会づくりをしていかなければなりません。真剣な社会づくりとしての第一歩として，家庭の果たす役割が今後ますます重要となってきます。

さて，2012年度「明日を生きる子どもたちのために」では『つながり』と題して小学校・中学校・保護者・教師の考えなどを比較分析し，まとめました。子どもの健全な成長と幸せを願ってやみません。

最後に，家庭・学校・地域の皆様の日頃の活動に感謝申し上げ，今後もご理解とご協力をお願いいたします。

2012年12月

一宮市小中学校ＰＴＡ連絡協議会
会　長　　渡　邊　隆　久

目　　次

明日を生きる子どもたちのために
「つながり」

Ⅰ　つながりを求めて

①　楽しいことがあったとき　……　1

②　困ったことや悩みごとがあるとき　……　2～4

Ⅱ　学校の中で

①　友だちとのつながり　……　5

②　教師とのつながり　……　6～7

Ⅲ　家庭・地域の中で

①　家族とのつながり　……　8～10

②　地域の人とつながるために　……　11～12

＜アンケート実施者＞

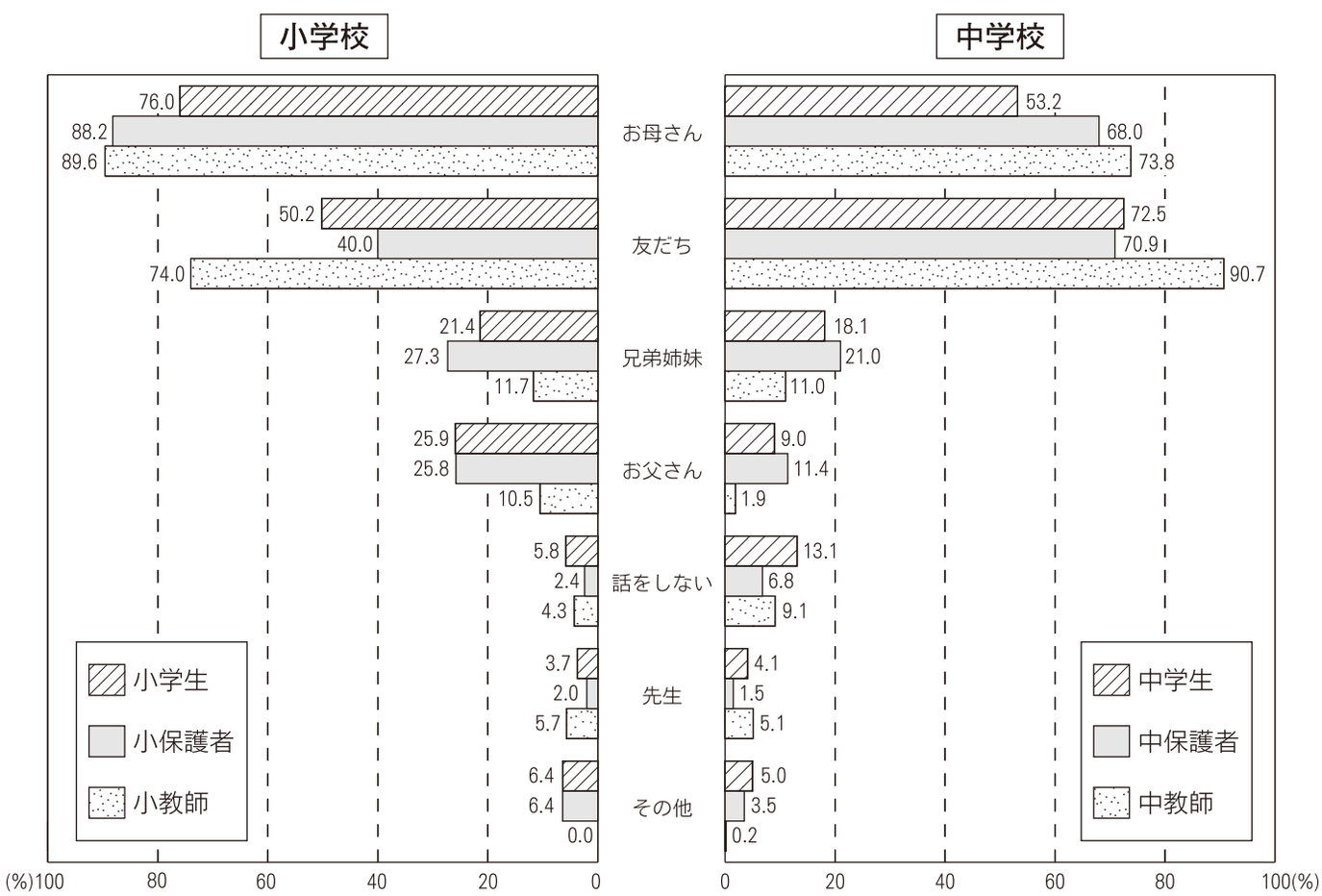
☆小学生　……　小学5年生　　☆中学生　……　中学2年生

☆保護者　……　小5・中2の保護者　　☆教　師　……　小学校・中学校の教師

Ⅰ つながりを求めて

① 楽しいことがあったとき

◆ 学校での楽しい出来事があったときだれに話しますか。（小・中　複数回答）
◆ お子さんは，学校での楽しい出来事をだれに話すことが多いと思いますか。（保護者　複数回答）
◆ 児童・生徒は，学校での楽しい出来事をだれに話すことが多いと思いますか。（教師　複数回答）



学校で楽しいことがあったときには，小学生はお母さんに，中学生は友だちに話すことが多いことがわかります。また，中学生になるとお父さんと話をすることが少なくなるのが現状です。学校での出来事は，先生に話さずに家で話しているようです。

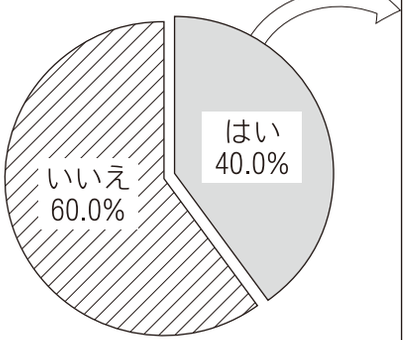
② 困ったことや悩みごとがあるとき

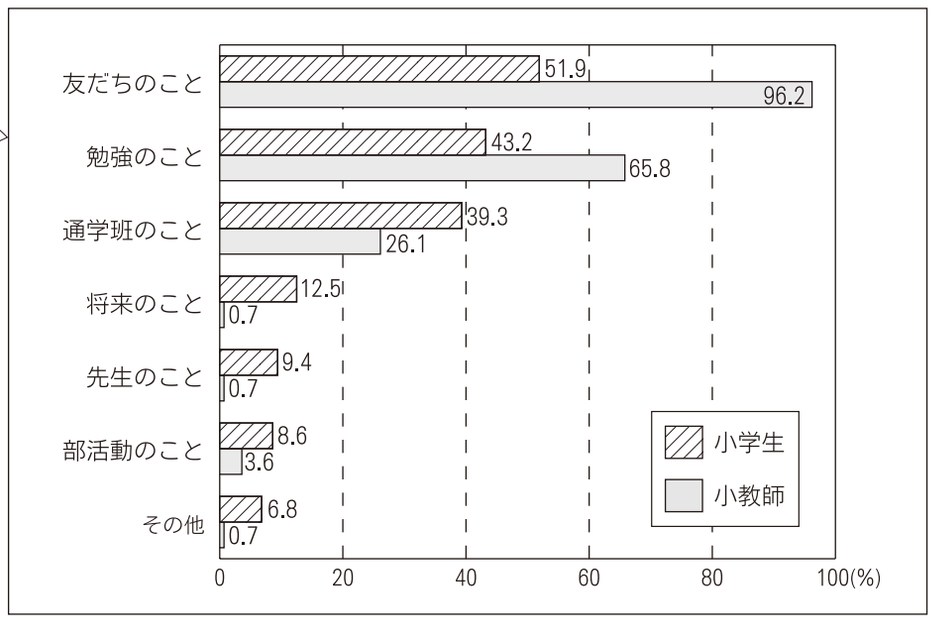
◆　学校のことで困ったり，悩んだりすることがありますか。　(小・中)

◆　どんなことで困ったり，悩んだりしましたか。（小・中　複数回答）

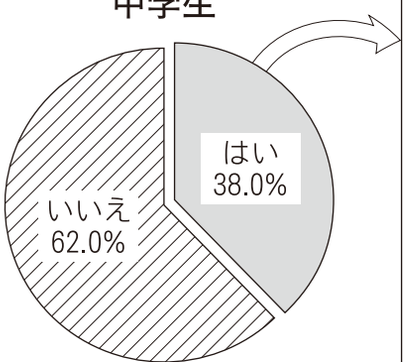
◆　児童・生徒は，どんなことで困ったり，悩んだりしていると思いますか。（教師　複数回答）

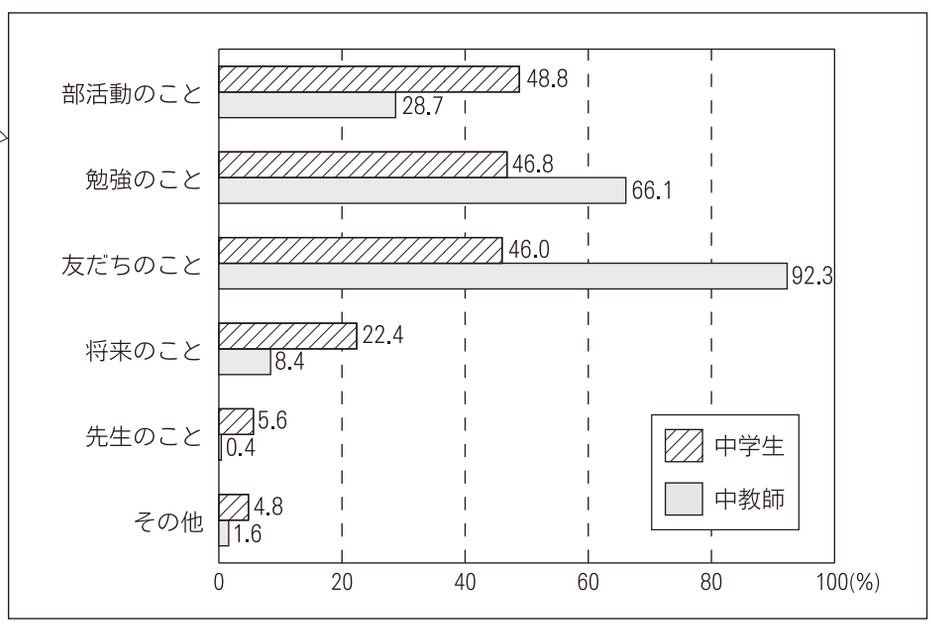
小学生





中学生

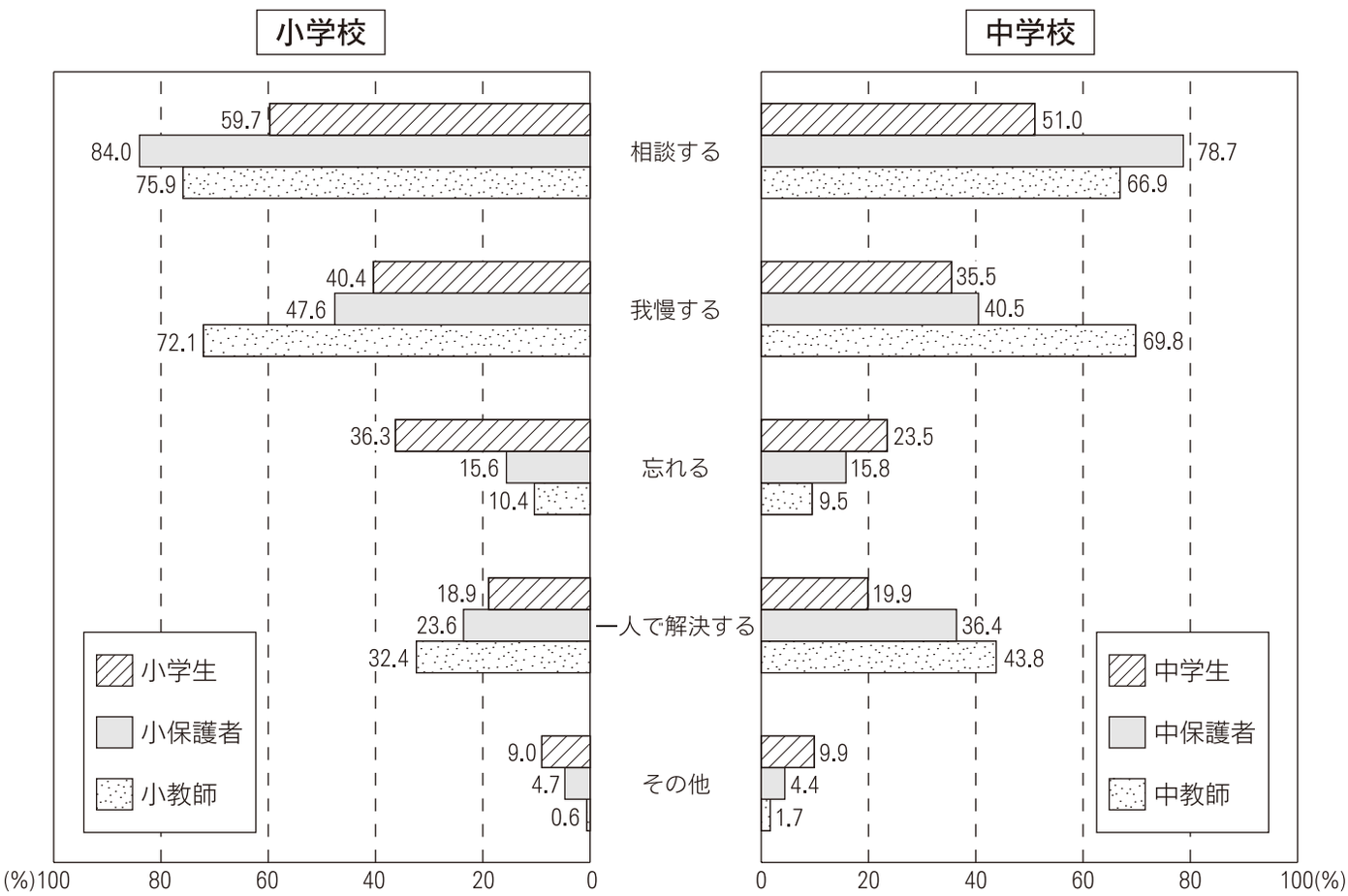




子どもたちは「友だち」のことや「勉強」についての悩みを多く抱えていることがわかります。とくに，小学生は「通学班」のこと，中学生は「部活動」のことにも困ったり，悩んだりしています。また，小中共通して教師が思っている以上に「将来のこと」にも悩みを持っていることがわかります。子どもと先生との意識のギャップがあるようです。

教師は子どもの悩みを理解するためにも，１日１回声をかけたり，相談する時間やアンケートをとる機会を増やしたりしながら，積極的に子どもたちの内面に気づく努力をしていく必要があります。

◆　困ったり，悩んだりしたとき，どうしましたか。　（小・中　複数回答）
◆　お子さんは，困ったことや悩みごとをどうすることが多いと思いますか。
（保護者　複数回答）
◆　児童・生徒は，困ったことや悩みごとをどうすることが多いと思いますか。
（教師　複数回答）



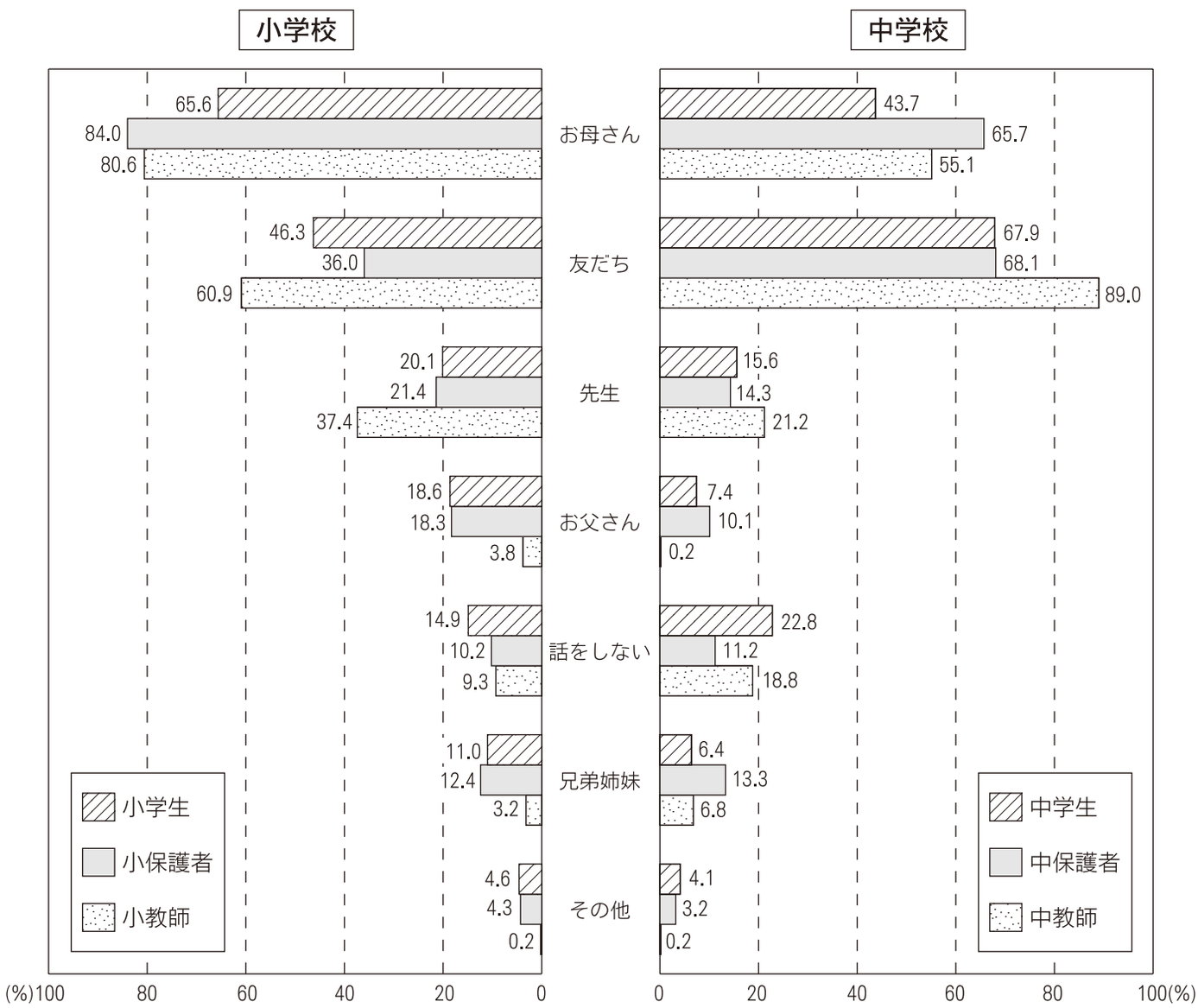
子どもたちが悩んでいることの内容によっては，「我慢する」や「忘れる」といった自分で抱え込む方法をとっているようです。つらい気持ちをわかってあげられるように．教師と保護者が連携し，子どもたちが相談しやすい雰囲気や環境作りを見直していく必要があるのではないでしょうか。

子どもたちは困ったことや悩みごとがあるときに，
だれに相談することが多いのでしょう。

◆　学校のことで困ったことや悩みごとがあるとき，だれに相談しますか。
(小・中　複数回答)

◆　お子さんは，困ったことや悩みごとをだれに相談することが多いと思いますか。
（保護者　複数回答）

◆　児童・生徒は，困ったことや悩みごとをだれに相談することが多いと思いますか。
（教師　複数回答）

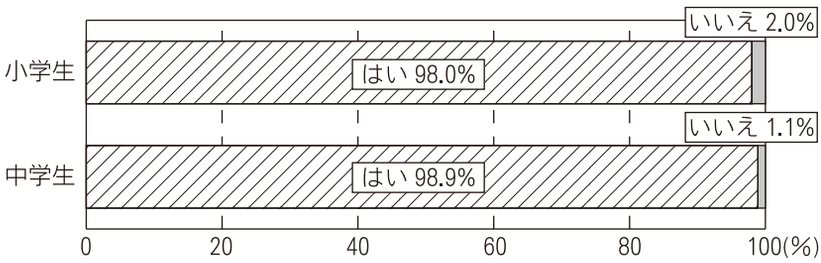


困ったことや悩みごとについては，小学生も中学生も，お母さんや友だちに相談することが多いようです。また，中学生になると家族よりも友だちに相談することが増えてきていることがわかります。子どもたちが困ったことや悩みごとを相談しやすいように，われわれ大人は，子どもとのつながりを深めていく必要があります。

Ⅱ 学校の中で

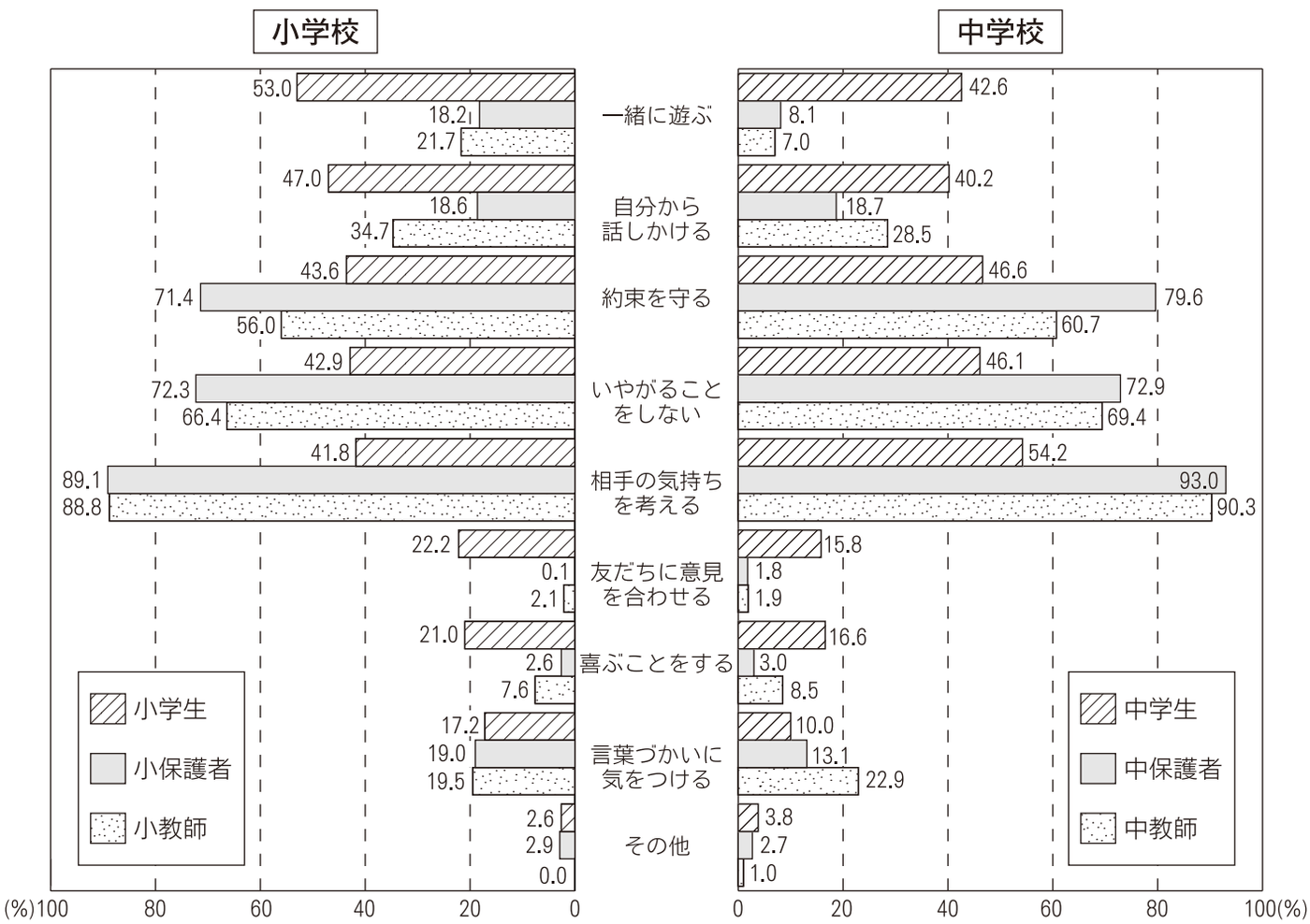
① 友だちとのつながり

◆ 仲の良い友だちはいますか。（小・中）



ほとんどの小学生，中学生が，仲の良い友だちがいるのですね。仲良くするために，どんなことに気をつけているのかしら。

◆ 友だちと仲良くするために気をつけていることはどんなことですか。（小・中　複数回答）
◆ お子さんが友だちと仲良くするため大切にさせたいことはどんなことですか。（保護者　複数回答）
◆ 児童・生徒が友だちと仲良くするため大切にさせたいことはどんなことですか。（教師　複数回答）



子どもたちは，友だちとのつながりの中で「一緒に遊ぶ」「自分から話しかける」ことを大切にしています。友だちと仲良くするために，積極的にコミュニケーションを取ろうとしていることがわかります。保護者や教師は，「相手の気持ちを考える」，「約束を守る」，「いやがることをしない」ことを大切にしてほしいと考えています。子どもたちに，友だちとのよりよいつながりを継続させていくためには，集団生活の中で人間関係づくりを学ばせて，心を育てる指導が一層求められるのではないでしょうか。また，仲の良い友だちがいなくて困っている子には，大人が手を差しのべてあげることが大切ですね。

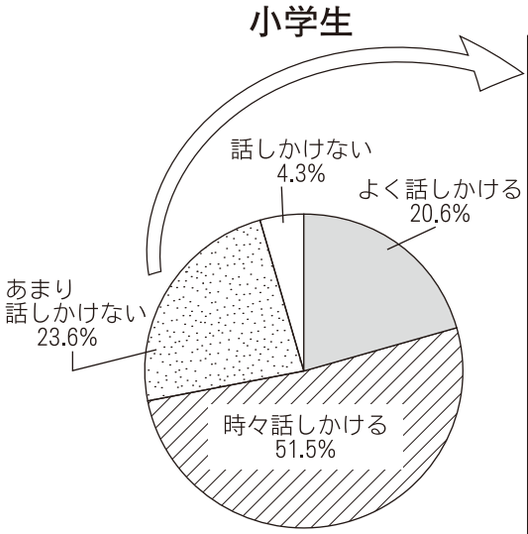
② 教師とのつながり

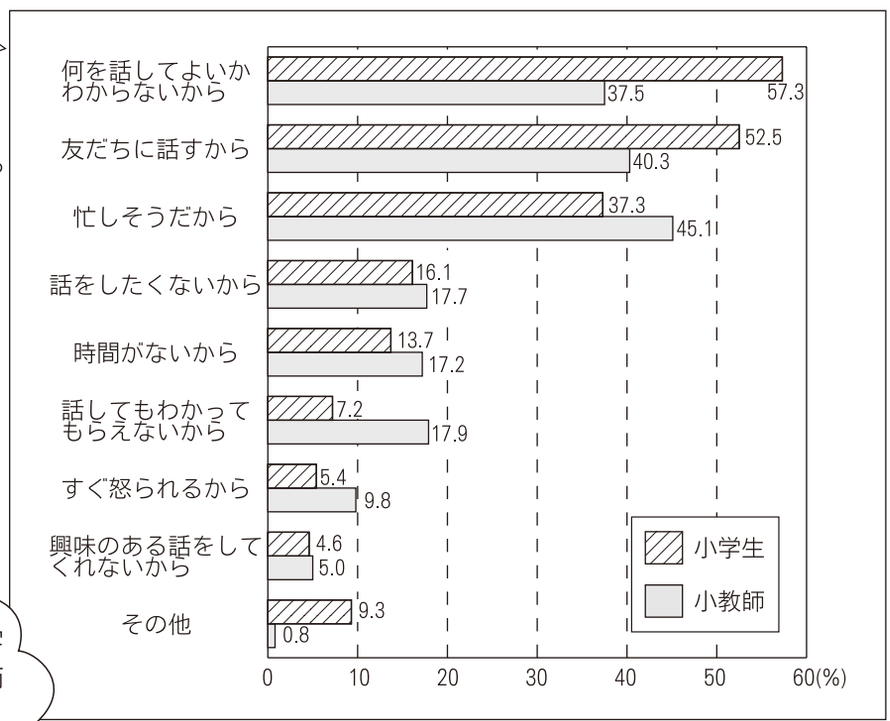
◆　学校の先生に，自分から話しかけますか。　（小・中）

◆　学校の先生に話しかけない理由は何ですか。　（小・中　複数回答）

◆　児童・生徒が学校の先生に話しかけないのはなぜだと思いますか。　（教師　複数回答）

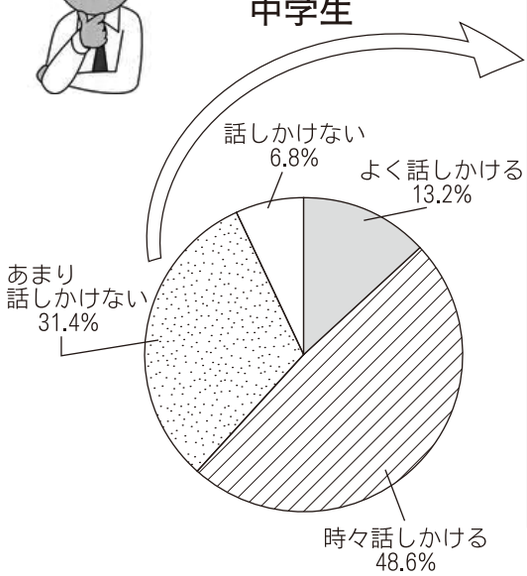
小学生

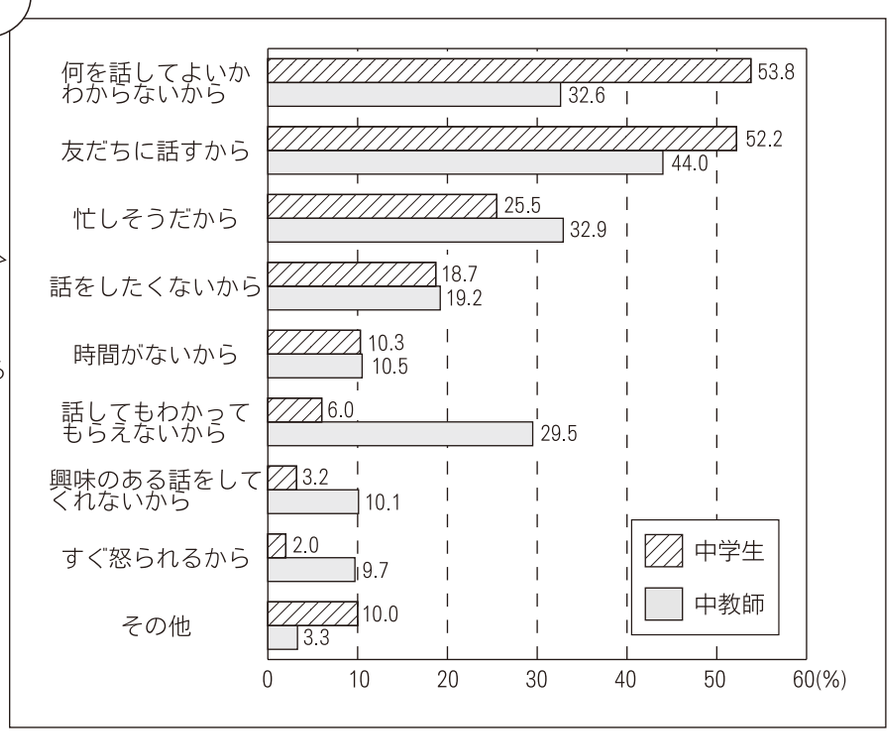




小学５年生では約25％，中学２年生では約35％の子が，教師にはあまり話しかけていません。どんな理由なのでしょう。

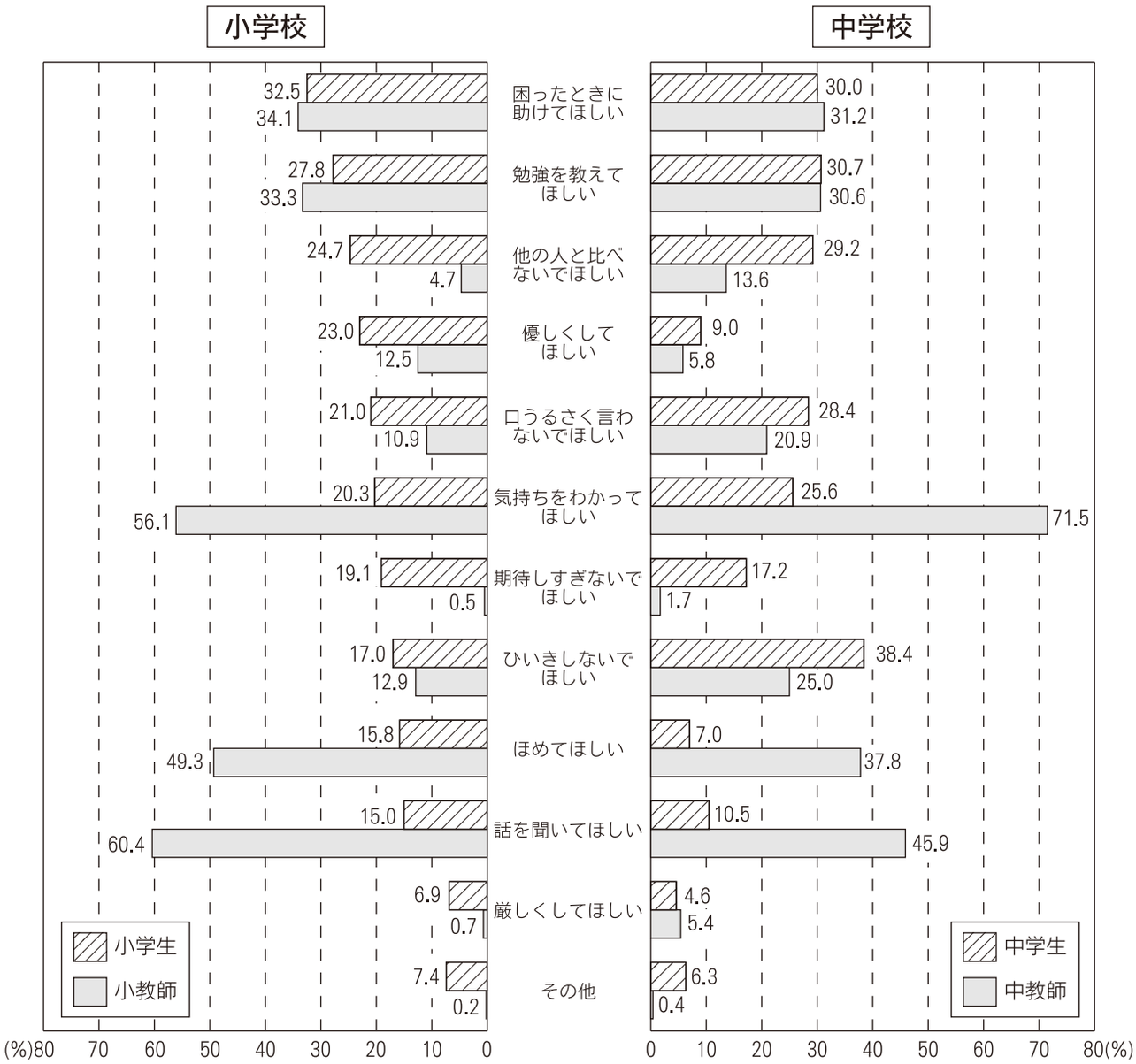
中学生





中学校の教師は「話してもわかってもらえないから」話しかけないと感じていますが，中学生はそのように感じていません。特に，50％ほどいる「何を話していいかわからないから話しかけない」子どもたちに対して，教師側から声をかけるなど，その子に寄り添った指導をしていく必要があります。

◆　学校の先生にしてほしいことはどんなことですか。　（小・中　複数回答）
◆　児童・生徒が学校の先生にしてほしいことはどんなことだと思いますか。
（教師　複数回答）



子どもたちは，学校の先生に「困ったときに助けてほしい」と思っているんだね。それ以外にも，ひいきやほかの人と比べることをしないでほしいみたい。

教師は「子どもの気持ちをわかってあげる」ことが大切だと考えているのに対し，子どもたちは「困ったときに助けてほしい」，「勉強を教えてほしい」と，目の前にある問題を解決するためにつながりを求めています。また，そういったつながりを求める一方，「口うるさく言われたくない」，「期待をしすぎないでほしい」という心理もうかがえます。

教師は，子どもの成長を期待しつつ，思春期をむかえた複雑な気持ちを抱えた子どもたちとのかかわり方を考えていく必要があるようです。

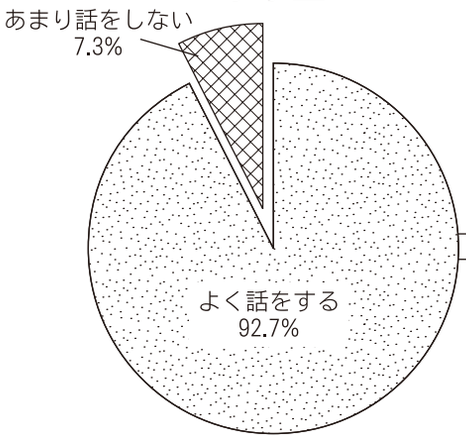
Ⅲ 家庭・地域の中で

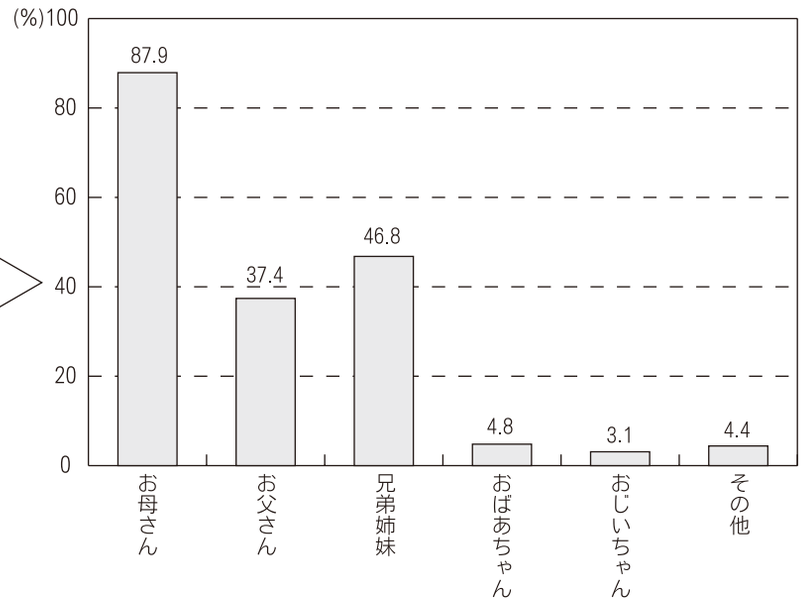
① 家族とのつながり

◆　あなたは，家の人と話をしますか。　（小・中）

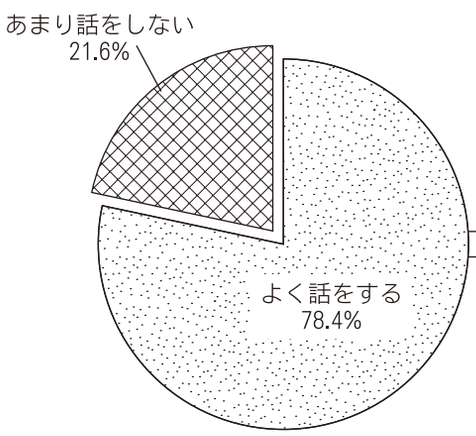
◆　あなたは，だれとよく話をしますか。（小・中　複数回答）

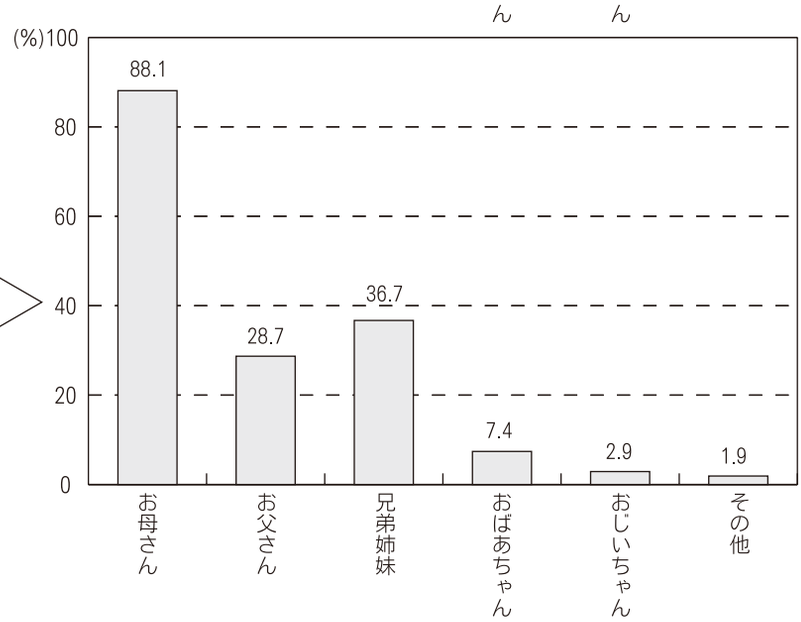
小学生





中学生

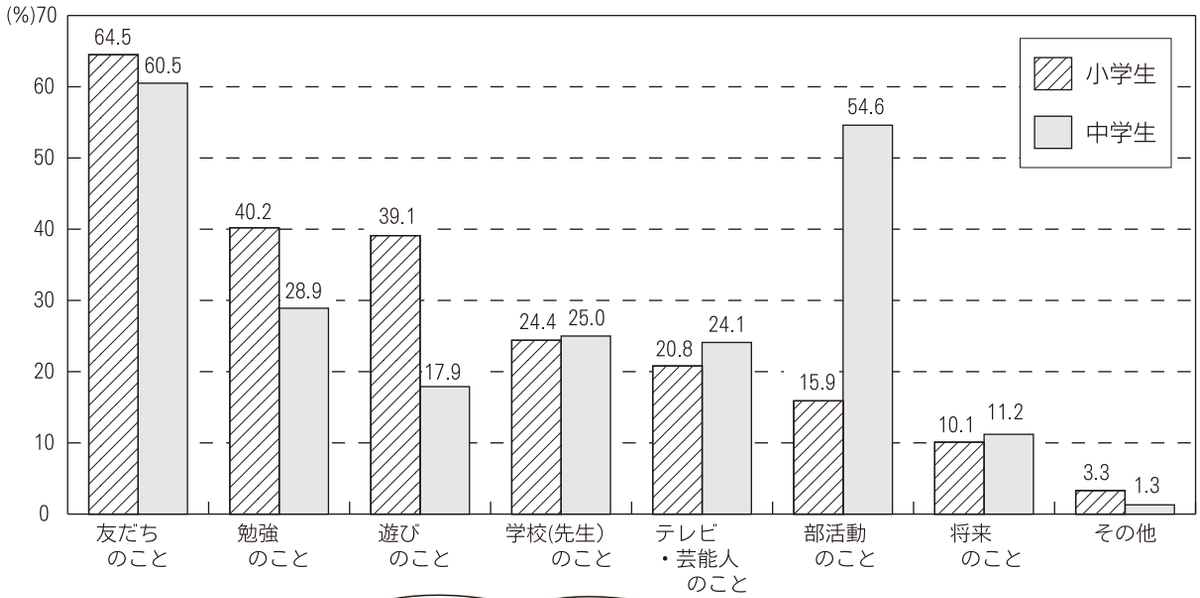




小学生・中学生ともに「よく話をする」の割合が高いことがわかります。なかでも，小学生・中学生ともに「お母さん」「兄弟・姉妹」との会話が多いようです。

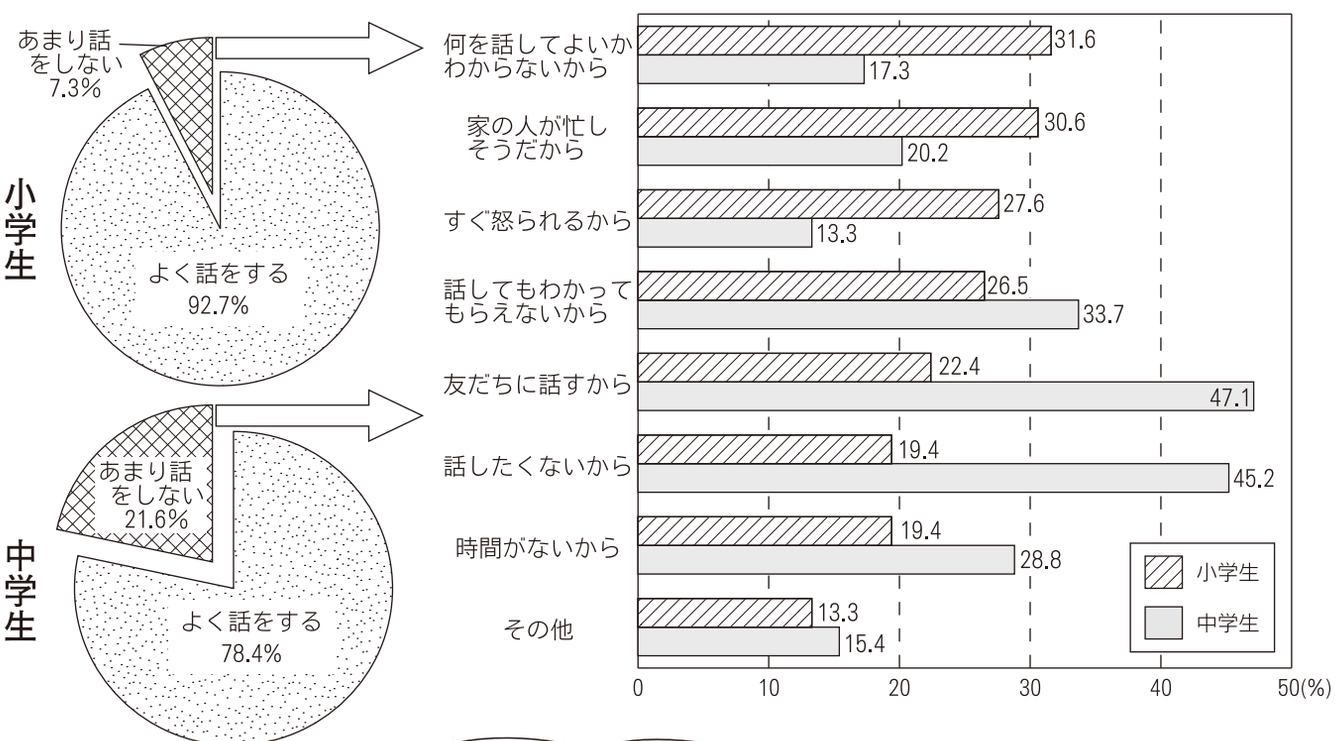
中学生では，「よく話をする」割合が小学生に比べると少し低くなっているものの，家の人とのよいつながりができていることがわかります。家で一緒に過ごすことが多いので共通の話題も生まれやすいのではないでしょうか。「お母さん」の割合が高いことにお父さんは少し寂しく思われるでしょう。子どもとたくさん話せる機会が増えるといいですね。

◆　あなたは，家の人とどんな話をしますか。（小・中　複数回答）



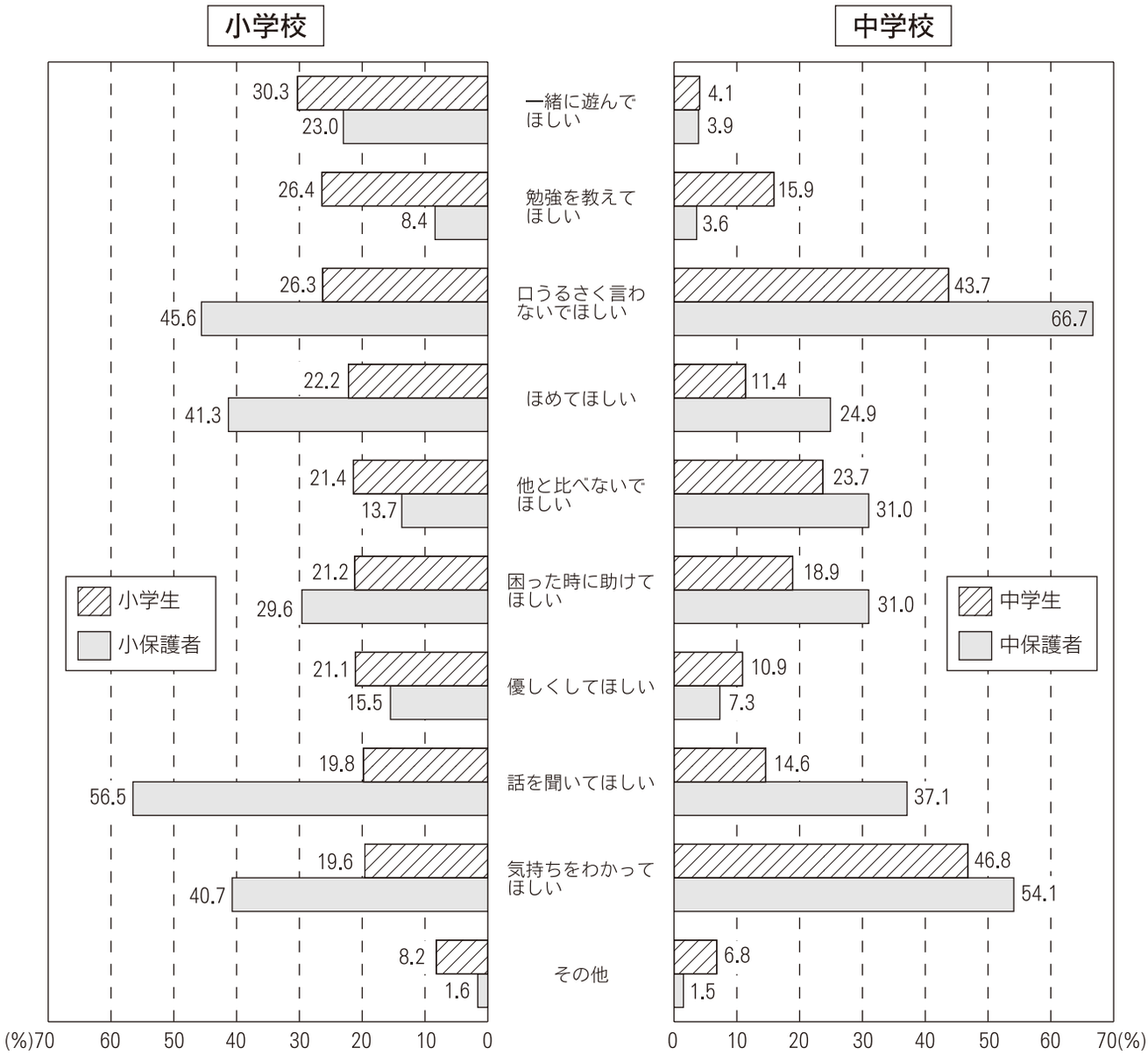
小学生は「勉強のこと」，「遊びのこと」，中学生は「部活動のこと」が比較的高くなっています。やはり中学生になると，部活動に対する関心が高いようです。また，小学生・中学生ともに，「友だちのこと」が60％以上で，友人関係についての話題が多いことがわかります。

◆　あなたが家の人と話をしないのはなぜですか。（小・中 複数回答）



小学生では「怒られるから」，「忙しそうだから」などという親の態度や状況などを原因とした理由が多いのに対し，中学生では「話したくない」，「友だちに話す」，「わかってもらえない」などという，思春期に入った中学生の心情を読み取ることができます。

◆　あなたがおうちの人に望んでいることは何ですか。　（小・中　複数回答）
◆　お子さんがおうちの人に望んでいることは何だと思いますか。　（保護者　複数回答）

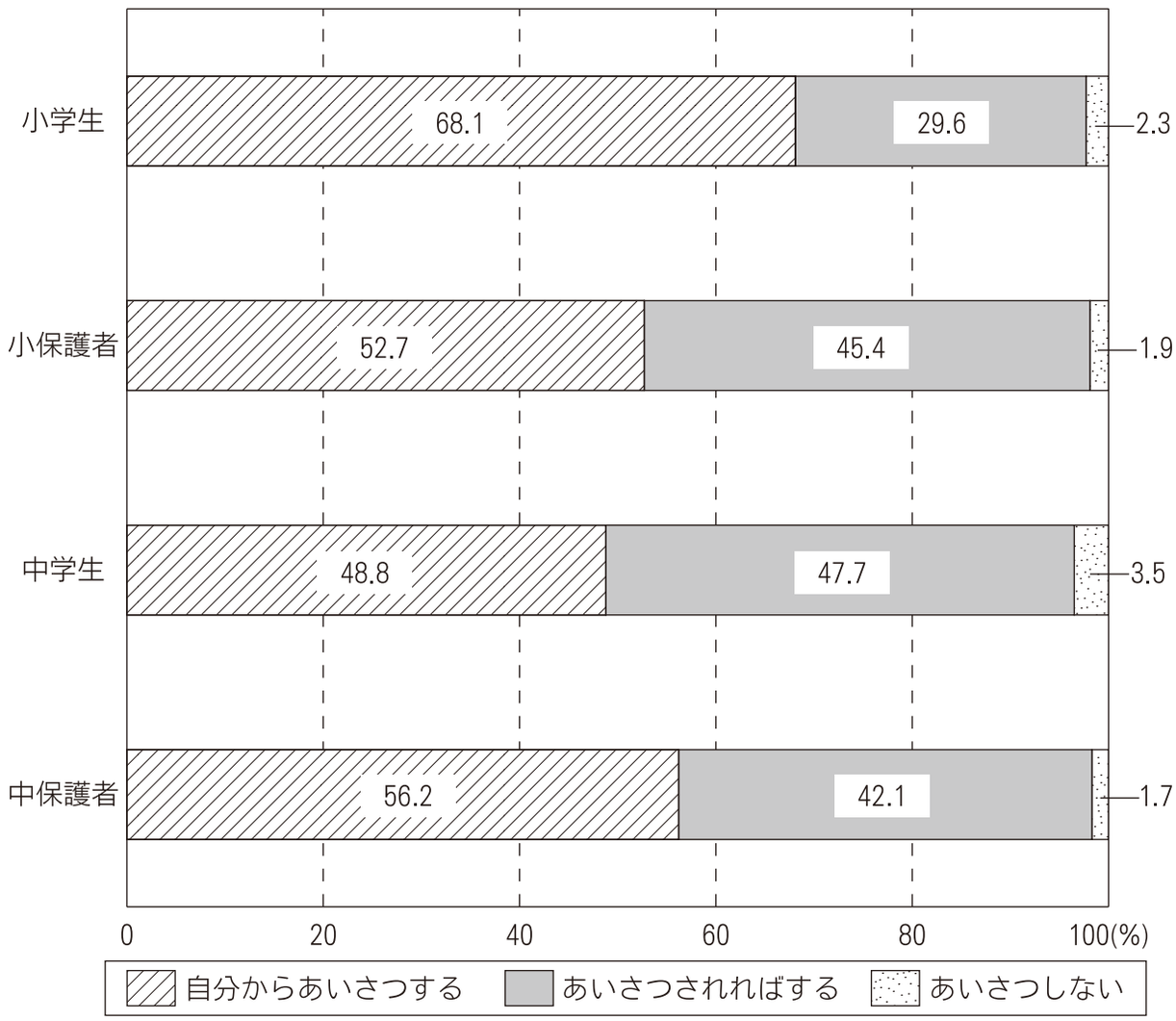


小学生は「一緒に遊んでほしい」，「勉強を教えてほしい」，小学生の保護者は「話を聞いてほしい」の割合がそれぞれ高くなっています。
一方，中学生と中学生保護者ともに「気持ちをわかってほしい」の割合が高くなっています。

小学生では，どの項目も平均した割合であることから，表現方法に違いがあるものの，親との何らかの「つながり」を求めていると言えるのではないでしょうか。
中学生では保護者も「口うるさく言わないでほしい」という割合が高くなっています。わが子のことを心配する親心もわずらわしくなるのですね。一方で，子どもも保護者も「気持ちをわかってほしい」の割合が高いことから，家族で過ごす時間を設けて日常の何気ないことから会話する機会を増やすとよいのですね。

② 地域の人とつながるために

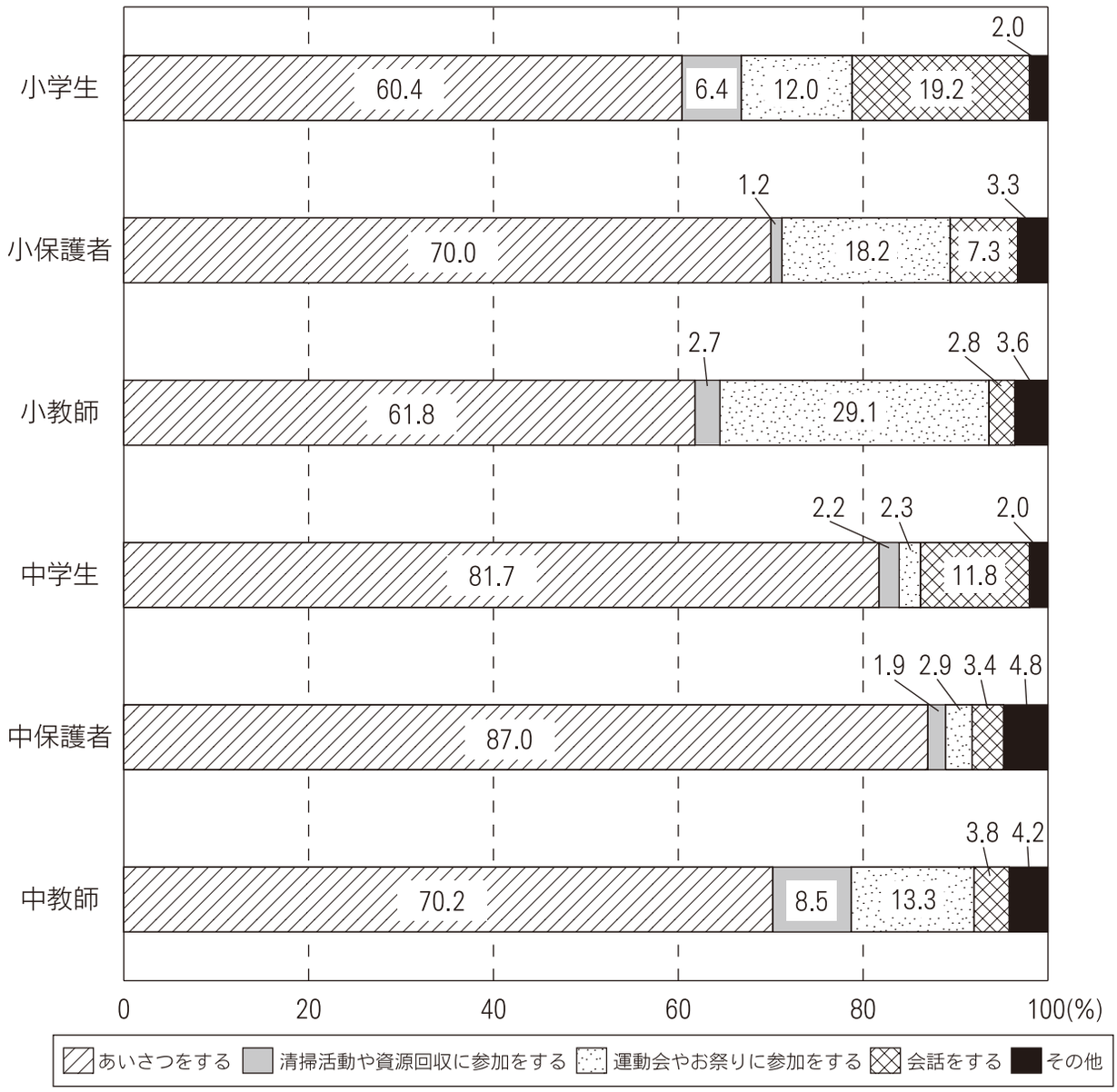
◆ あなたは，地域や近所の人にあいさつをしますか。（小・中）
◆ お子さんは，地域の人や近所の人とあいさつをしますか。（保護者）



小学生の70％近くが自分からあいさつできると思っています。中学生になると20％ほどその割合が低くなっていますが，「あいさつされればする」の割合は高くなっているので，あいさつができる児童・生徒の絶対数はほぼ変わりません。

小学生のころから，自分からあいさつができる子どもを育てていく必要があります。そのためには，保護者や教師が積極的に子どもたちに声かけをしていかなければいけません。

◆　あなたは，近所の人と親しくするためにどんなことが大切だと思いますか。（小・中）
◆　児童・生徒に，地域の人や近所の人と親しくさせるためにどんなことを大切にさせたいですか。（教師）
◆　お子さんに，地域の人や近所の人と親しくさせるためにどんなことを大切にさせたいですか。（保護者）



小学生，中学生の多くは，あいさつをすることが大切であると考えていることが分かります。教師や保護者も同様にとらえています。地域の行事について見てみると，中学生は「清掃活動や資源回収」「運動会やお祭りに参加」という意見が少ないようです。

地域の人とつながっていくことは，子どもたちの健やかな成長にとって，欠かせないものです。そのためには，地域の行事に積極的に参加することも大切ですが，なかなか難しいのが現実です。

わたしたち大人は，子どもたちに周りの人とつながりをもつためには，「あいさつ」が果たす役割が大きいことを知らせていくべきだと思います。

あ　と　が　き

一宮の教育白書「明日を生きる子どもたちのために」は，学校や家庭生活における子どもたちの意識や実態，保護者，教師の意識をあきらかにすることを目的として編集されてきました。

昨年に起きた震災から，わたしたちは，命の尊さや周りの人と助け合い，支え合うことの大切さを改めて実感することができたのではないかと思います。今後，子どもたちが，生きていくためには，学校・家庭・地域の中で周りの人とのよりよい人間関係づくりを意識して生活していくことが大切です。

今回は，子どもたちと学校・家庭地域とのつながりに目を向けて，教師・友だち同士との関係や親子間の関係に焦点を当て，アンケート調査を行い，分析しました。

今後もわたくしたち教師は，保護者とより一層の共通理解を図りながら，教育活動をすすめていく必要があります。少しでも，子どもたちの心の内面を知り，問題解決に向けた取り組みの糸口として，少しでも役立つことを願っています。

なお，この冊子を作成するにあたって，保護者ならびに児童・生徒の皆様，先生方にはアンケート調査にご協力いただき，ありがとうございました。編集委員一同，心よりお礼申し上げます。

2012年12月

一宮市立丹陽中学校
北 垣 戸 正 樹

「明日を生きる子どもたちのために」編集委員

小島	佐知（神山小）	磯部	剛司（奥　小）
渡瀬	輝昌（富士小）	本田	浩之（木曽川東小）
内藤	里奈（南部中）	古内	一成（丹陽中）
町田	智昭（西成東部中）	北垣戸	正樹（丹陽中）

アンケート有効回答者

小学５年生	1,336名	小学保護者	1,333名	（42校）
中学２年生	657名	中学保護者	587名	（19校）
小学校教師	789名	中学校教師	484名	

＜表紙のことば＞

仲間がいるから元気が出る。
元気が出ればやる気が起きる。
未来に輝く子どもたちの幸せを願って…

表紙デザイン　眞　子　佳　子

２０１２　明日を生きる子どもたちのために
編集発行　一宮市小中学校ＰＴＡ連絡協議会
一　宮　市　教　職　員　組　合
印 刷 所　㈲ メディアポート
２０１２年１１月印刷
２０１２年１２月発行